

「NP₁ の NP₂」 アノテーションガイドライン

峯島宏次 田中リベカ
2017 年度情報科学演習（戸次研究室）

2018 年 1 月 14 日

目次

1	【飽和：SATURATED】(タイプ A)	2
1.1	[空間：location]	2
1.2	[時間：time]	3
1.3	[順序：order]	4
1.4	[一般：general]	4
2	【コピュラ：COPULA】(タイプ B)	5
3	【非飽和：UNSATURATED】	6
3.1	[サ変名詞：verbal-noun] (タイプ E)	6
3.1.1	[ガ格：nominative]	6
3.1.2	[ヲ格：accusative]	6
3.1.3	[ニ格：dative]	7
3.2	[形容詞：adjective]	8
3.3	[一般：general] (タイプ D)	9
4	【部分全体：PART-WHOLE】(タイプ F)	11
5	【時間断片：TIME-SEGMENT】(タイプ C)	12
6	【同格：APPOSITIVE】	12
7	【例示：EXEMPLIFICATION】	13
8	【形式名詞：FORMAL-NOUN】	14
9	【数量・限定：QUANT-NUM】	15
10	【慣用表現：IDIOM】	15

分類ラベル

- 【】は大分類のラベル、[] は下位区分のラベルを表す。

例

- 「ID-28_aozora_Dazai11940JP」はNPCMJでのIDを表す。
- 「ID-21_aozora_Dazai11940JP*」のように*付きの例は、NPCMJの該当する文を一部改変したものと表す。

1 【飽和：SATURATED】(タイプA)

概要：NP₁と関係RをもつNP₂。

- 典型的にはNP₂は飽和名詞。ただし、NP₂が非飽和名詞であるが、NP₁がNP₂のパラメータ（項）になっていないような場合もありうる。
例：北海道の妹 → 北海道に住んでいる（私の）妹（【飽和-一般】）
- 関係Rの分類に応じて、[空間] [時間] [順序] [一般]という下位区分をもつ。デフォルトの下位分類は[一般]とし、特に関係が定まる場合に[空間] [時間] [順序]をつける。

1.1 [空間：location]

概要：NP₁は場所・空間を表す表現で、全体は、「空間NP₁に位置するNP₂」と言い換えられる。

例：

- (1) a. [[NP₁ 庭] の [NP₂ ベンチ]] に腰掛けた。
b. 立川は [[NP₁ 東京] の [NP₂ 都市]] の一つだ。
c. [[NP₁ カウンターの内側] の [NP₂ 壁]] に酒瓶が並んでいる。
d. 昨年から [[NP₁ パレスチナ自治区] の [NP₂ ガザ]] で医療援助の活動をしています。
e. [[NP₁ 津軽平野の真ん中] の [NP₂ 小さな町]] に住んでいる。 (ID-21_aozora_Dazai11940JP*)
f. [[NP₁ 裏] の [NP₂ 登記所]] のお坊ちゃんなのである。 (ID-28_aozora_Dazai11940JP)
g. [[NP₁ 佐賀、福岡両県] の [NP₂ 脊振山地]] との誘致合戦の末、昨年8月に北上山地は国内候補地に選ばれた。 (ID-16_newswire_KAHOKU_00089_K201401040A0F70XX00001JP)

注意：[一般]との区別に注意する。[空間]のラベルを付与するのは、「NP₁が表す空間にNP₂が位置する」という解釈をもつものに限定する。特にNP₁に「日本」「東京都」「文京区」「お茶の水女子大学」「総理官邸」「ホワイトハウス」のような地域・組織を表す固有名詞が現れる場合、それが場所・空間を表す名称として使われているのか、組織や団体を表す名称として使われているのかに注意する。「NP₁が表す空間にNP₂が位置する」という以外の解釈をうける可能性がある場合は、【飽和-一般】を付与する。

- (2) [[NP₁ 毎日放送大阪本社] の [NP₂ 会議]] に出席した。 (ID-64_wikipedia_Kamen_Rider*)

これは、「毎日放送大阪本社（という空間）で行われた会議」という解釈だけでなく、「毎日放送大阪本社」によってある組織を指示し、「毎日放送大阪本社（という組織）が主催した会議」という解釈も可能である。このような場合は、【飽和-一般】を優先する。

含意関係：[空間] の「NP₁ の NP₂」を含む文が含意する構文は以下の通り。[P C] は助詞（ガ、ヲ、ニ、ハ等）、[VP D] は動詞句の位置に現れる表現を表す。

- $$\begin{aligned} & [[\text{NP}_1 \text{ A}] の [\text{NP}_2 \text{ B}]] [\text{P C}] [\text{VP D}] \\ \Rightarrow & [[\text{NP}_1 \text{ A}] にある [\text{NP}_2 \text{ B}]] [\text{P C}] [\text{VP D}] \quad (\text{パターン1} : 「ある」への言い換え}) \\ \Rightarrow & [\text{NP}_2 \text{ B}] [\text{P C}] [\text{VP D}] \quad (\text{パターン2} : \text{NP}_1 \text{ の除去}) \\ \Rightarrow & [\text{NP}_1 \text{ A}] に [\text{NP}_2 \text{ B}] がある \quad (\text{パターン3} : \text{場所存在文の含意}) \end{aligned}$$

- (3) [[NP₁ カウンターの内側] の [NP₂ 壁]][P に][VP 酒瓶が並んでいる]。
⇒ [[NP₁ カウンターの内側] にある [NP₂ 壁]][P に][VP 酒瓶が並んでいる]。 (パターン1)
⇒ [NP₂ 壁][P に][VP 酒瓶が並んでいる]。 (パターン2)
⇒ [NP₁ カウンターの内側] に [NP₂ 壁] がある。 (パターン3)

助詞[P C] が場所を表す「に」「で」であるとき、多くの場合、以下のパターン4の含意関係も成立する。

- $$\begin{aligned} & [[\text{NP}_1 \text{ A}] の [\text{NP}_2 \text{ B}]] [\text{P に (で)}] [\text{VP D}] \\ \Rightarrow & [\text{NP}_1 \text{ A}] [\text{P に (で)}] [\text{VP D}] \quad (\text{パターン4} : \text{NP}_2 \text{ の除去}) \\ (4) & \text{昨年から } [[\text{NP}_1 \text{ パレスチナ自治区}] の [\text{NP}_2 \text{ ガザ}]] [\text{P で}] [\text{VP 医療援助の活動をしている}]。 \\ \Rightarrow & \text{昨年から } [\text{NP}_1 \text{ パレスチナ自治区}] [\text{P で}] [\text{VP 医療援助の活動をしている}]。 \quad (\text{パターン4}) \\ (5) & [[\text{NP}_1 \text{ 津軽平野の真ん中}] の [\text{NP}_2 \text{ 小さな町}]] [\text{P に}] [\text{VP 住んでいる}]。 \\ \Rightarrow & [\text{NP}_1 \text{ 津軽平野の真ん中}] [\text{P に}] [\text{VP 住んでいる}]。 \quad (\text{パターン4}) \end{aligned}$$

ただし、パターン4の含意関係が成り立たないケースもある。

- (6) [[NP₁ 庭] の [NP₂ ベンチ]][P に][VP 腰掛けた]。
≠ [NP₁ 庭][P に][VP 腰掛けた]。 (パターン4)

1.2 [時間 : time]

概要： 時間 NP₁ に位置する NP₂。

例：

- (7) a. 今回の核開発は [[NP₁ 1994 年] の [NP₂ 米朝合意]] に反する。
b. [[NP₁ 江戸地代] の [NP₂ 農民]] は貧しかった。
c. 私は [[NP₁ 高等学校時代] の [NP₂ 友人]] の顔でさえ忘れていた (ID-32_aozora_Dazai11940JP*)
d. 思い返せば、[[NP₁ 2009 年 10 月] の [NP₂ 立ち上げ]] から成果取りまとめの今まで、一人前の研究所に近づくよう、全力で前に進んできました。 (ID-6_nonfiction_What_NINJAL_aspires_toJP)

- e. 阿部は当時を振り返り、「[[NP₁ あの時] の [NP₂ 庄野さんの一言]] がなかつたら、今の藤岡君があつたのかというくらいの話です」と語っている。 (ID-108_wikipedia_Kamen_Rider)
- f. [[NP₁ きのう] の [NP₂ 午後]]、太郎が訪ねてきた。 (262_textbook_kisonihongo;page_82;JP)
- g. [[NP₁ おととい] の [NP₂ 晩]] と、きのうと、二日つづけて酒を呑んで、けさは仕事しなければならぬので早く起きて、台所へ顔を洗いに行き、ふと見ると、一升瓶が四本からになっている。 (ID-4_aozora_Dazai11940JP)
- h. 展示会は [[NP₁ 先週] の [NP₂ 土曜日]] に始まった。 (268_textbook_kisonihongo;page_82;JP)
- i. [[NP₁ あの頃] の [NP₂ テレビ]] はよく故障したものだった。 (570_textbook_kisonihongo;page_123;JP)

注意：

- NP₂ は「農民」「友人」「テレビ」のように人や物を表す場合、「米朝合意」「立ち上げ」「庄野さんの一言」のように出来事を表す場合、「晩」「午後」「土曜日」のように時間を表す場合がある。
- 【時間断片】との区別に注意する。詳細は【時間断片】の欄を参照のこと。

1.3 [順序：order]

概要： 何らかの順序づけにおいて、順位 NP₁ に位置する NP₂。NP₁ は順位・順番を表す表現。

例：

- (8) a. [[NP₁ 最初] の [NP₂ 結婚]] は二十代前半の頃だった。
 b. 一ヶ月後に届いた [[NP₁ 二番目] の [NP₂ 手紙]] は暗い内容だった。
 c. エラの [[NP₁ 最初] の [NP₂ 夫]] との間の息子たちは、父親と共にデン・ハーグに住んでいた。
 (ID-42_wikipedia_Audrey_HepburnJP*)
 d. 仙台市は 1989 年に [[NP₁ 第 11 番目] の [NP₂ 政令指定都市]] になった。 (ID-187_wikipedia_Sendai_CityJP*)
 e. ヘップバーンの [[NP₁ 最後] の [NP₂ 出演映画]] となったのが、1989 年のスティーヴン・スピルバーグ監督作品『オールウェイズ』だ。 (ID-223_wikipedia_Audrey_Hepburn*)

注意：

- 「二番目の手紙」は「二番目に受け取った手紙」などと関係を補えるが、[一般] のラベルより [順序] のラベルを優先する。
- 「今回の試み」「今度の大会」「さつきの試合」のように時間的な限定を含む場合は、[飽和-順序] ではなく、[飽和-時間] に分類する。時間的な含みがなく、時間を表す表現に置き換えることができないときのみ [飽和-順序] に分類する。

1.4 [一般：general]

概要： 上記以外、NP₁ となんらかの関係 R にある NP₂。R は典型的には所有・所属関係だが、それ以外にも様々な関係がありうる。

例：

- (9) a. [[NP₁ 海外] の [NP₂ 研究者]] の間では、産学官による誘致運動が進む日本への期待が高まって
いた。 (ID-17_newswire_KAHOKU_00089_K201401040A0F70XX00001*)
- b. Y君と、A君と二人さそい合せて、その夜、[[NP₁ 私] の [NP₂ 汚い家]] に遊びに来てくれること
になっていたのである。 (ID-43_aozora_Dazai11940JP)
- c. [[NP₁ カルビー製菓] の [NP₂ 「仮面ライダースナック」]] の付録である「仮面ライダーカード」
といったキャラクター商品が大ヒットした。 (ID-165_wikipedia_Kamen_Rider*)
- d. 東映の平山も [[NP₁ 毎日放送] の [NP₂ 引野芳照映画課長]] も、このデザインを絶賛した。
(ID-43_wikipedia_Kamen_Rider*)

注意： R の位置には NP₁, NP₂ の種類や文脈に応じてさまざまな関係が入りうる。

- 山田先生の本（山田先生が所有する本、山田先生が書いた本、etc.）
- 太郎の家（太郎が住んでいる家、太郎がデザインした家、etc.）
- 英文学科の松井先生（英文学科に所属する松井先生、英文学科出身の松井先生、etc.）
- 言語学の論文（言語学について書かれた論文）
- アップル社のパソコン（アップル社が製造したパソコン）

メモ： 9/27 版までは [所有] というラベルだったが、10/4 版から [一般] に改めた。

2 【コピュラ：COPULA】(タイプ B)

概要： NP₁ デアル NP₂。「である」（英語の be 動詞に対応する表現）は伝統的にコピュラ（copula, 繫辞）と呼ばれるため、ラベルを仮に「コピュラ」とする。

例： 看護婦の花子、ピアニストの学生、病気の父、75 歳の男性、スキ初心者の大倉さん、前述の件

例：

- (10) a. [[NP₁ 中立的な立場] の [NP₂ 素粒子物理学者や経済学者ら 10 人程度]] で構成し計画を検証す
る。 (ID-17_newswire_KAHOKU_00089_K201401040A0F70XX00001*)

テスト：

1. 「NP₁ の NP₂」を「NP₁ である NP₂」「NP₂ は NP₁ だ（である）」に置き換えることができる。
 - 「看護婦の花子」 → 「看護婦である花子」「花子は看護婦だ」
 ここで、「NP₂ は NP₁ だ（である）」は、「NP₂ は NP₁ が表す属性（カテゴリー）をもつ」という意味
であり、この「である」はいわゆる述定（predication）の意味をもつ。
2. 「NP₁」とは別の条件 α を連言的に追加するとき、「NP₁ で α の父」のように「で」が挿入される。
 - 「お笑い芸人の又吉」（コピュラ） → 「お笑い芸人で芥川賞作家の又吉」
3. 「NP₁」が定指示であるときには【コピュラ】の対象にはならない。

メモ：

- NP₁ が状詞の語幹であるとき【コピュラ】の対象となりうるが、ここでの説明は、「～だ」「～で」の形
式をとりうる状詞のみを念頭においている。

- 「～だ」「～で」の形式をとりえない状詞（「念願の」「待望の」「前述の」「実際の」）については別のテストが必要。（NPCMJ でのコピュラの基準と整合するかについても要検討。）
- NPCMJ ではコピュラの「の」には別ラベル（AX）が割り当てられているはずだが、コピュラが誤つて紛れている場合はあとでエラー報告するために、このラベルを振っておく。

3 【非飽和：UNSATURATED】

概要： NP₂ は関係を表す名詞句であり、NP₁ が NP₂ の意味的な項 (argument) となっている。NP₂ の分類に応じて、[サ変名詞] [形容詞] [一般] という下位区分をもつ。

3.1 [サ変名詞：verbal-noun] (タイプ E)

概要： NP₂ はサ変名詞かもしくはサ変名詞を一部に含む名詞句であり、NP₁ がそのサ変名詞が表す関係の項となっている。ここでいう「サ変名詞」とは、NPCMJ で「名詞-普通名詞-サ変可能」もしくは「名詞-普通名詞-サ変形状詞可能」という品詞タグをもつ語のことである。項 NP₁ の種類に応じて、[ガ格] [ヲ格] [ニ格] に下位分類される。

3.1.1 [ガ格：nominative]

概要： NP₁ が NP₂ のガ格の項になっている。一般に、行為や出来事の主体 (Subject, Agent) を表す。

例：

- (11) a. 子ども達が [[NP₁ 先生] の [NP₂ 指示]] に従わない。(=先生が指示する)
 b. 日本では、[[NP₁ 土地] の [NP₂ 値上がり]] が深刻化している。(=土地が値上がりする)
 (ID-135_textbook_kisonihongopage_50JP)
 c. [[NP₁ 関連産業] の [NP₂ 集積]] や [[NP₁ 教育レベル] の [NP₂ 向上]] など波及効果は計り知れない。(= 教育レベルが向上する)
 (ID-42_misc_EXAMPLEJP*)
 d. 浸水想定区域には市中心部の大部分が含まれ、要援護者の避難誘導など [[NP₁ 住民] の [NP₂ 協力]] が必要です。(= 住民が協力する)(ID-113_newswire_KAHOKU_00046_K201403110A0T30XX00001)

テスト： 「NP₁ が NP₂ する」という意味関係にある。

3.1.2 [ヲ格：accusative]

概要： NP₁ が NP₂ のヲ格の項になっている。一般に、行為や出来事の対象 (Object, Theme) を表す。

例：

- (12) a. 長年、[[NP₁ 物理学] の [NP₂ 研究]] に携わってきた。(= 物理学を研究する)
 b. 内乱によって [[NP₁ 都市] の [NP₂ 破壊]] が進んだ。(= 都市を破壊する)
 c. [[NP₁ 超大型加速器「国際リニアコライダー (ILC)」] の [NP₂ 誘致]] を目指す東北にとって、2013 年は節目の年だった。(超大型加速器「国際リニアコライダー (ILC)」を誘致する)
 (ID-4_newswire_KAHOKU_00089_K201401040A0F70XX00001)

- d. 頑強で正確な [[NP₁ 文の意味] の [NP₂ 解析]] により、自然言語処理のすべての課題への貢献を目指します。 (= 文の意味を解析する) (ID-19_misc_BUFFALOIJP*)

テスト： 「NP₁ を NP₂ する」という意味関係にある。

3.1.3 [二格 : dative]

概要： NP₁ が NP₂ の二格の項になっている。「三時の待ち合わせ (=三時に待ち合わせる)」のように NP₁ が副詞的な働きをもつ場合は含めない。

例：

- (13) a. [[NP₁ 受験した大学] の [NP₂ 合格]] が決まった。 (=大学に合格する)
b. [[NP₁ A 社] の [NP₂ 内定]] をもらった。 (= A 社に内定する)
c. [[NP₁ 結婚式] の [NP₂ 出席]] をとりやめた。 (=結婚式に出席する)

テスト： 「NP₁ に NP₂ する」という意味関係にある。

注意 1：NP₂ がサ変名詞を一部に含む例

以下は、NP₂ がサ変名詞を一部に含む例である。

- (14) [[NP₁ ドラマ] の [NP₂ 製作者]] に会った。 (=ドラマを製作する)

この場合、NP₂ の「製作者」は NPCMJ で、「製作」[者] という単語分割が行われ、「製作」には「名詞-普通名詞-サ変可能」という品詞タグ (POS) が付与されている *1。この場合、NP₁ の「ドラマ」とは「ドラマを製作する」という項関係をもつことから、[非飽和-サ変-ヲ格] を選択する。

- (15) しかし、 [[NP₁ ショッカー] の [NP₂ 協力者]] に されていた恩師・緑川博士の手引きにより、脳手術の寸前で脱出に成功。 (wikipedia_Kamen_Rider_0014)

NP₂ の「協力者」は、「協力」[者] という単語分割が行われ、「協力」には「名詞-普通名詞-サ変可能」という品詞タグ付与されている。この場合、NP₁ の「ショッカー」とは「ショッカーに協力する」という項関係をもつことから、[非飽和-サ変-ニ格] を選択する。

注意 2：イベントと内容の区別

サ変名詞はイベントを表す場合と内容を表す場合がある。

- (16) a. [[NP₁ 漫画連載] の [NP₂ 実現]] には難航した。 (46_wikipedia_Kamen_Rider; JP*)
b. [[NP₁ 怪人] の [NP₂ デザイン]] は石森のラフを高橋がクリンナップし、色指定して決定画としていた。 (131_wikipedia_Kamen_Rider; JP*)

NP₂ の「実現」「デザイン」はいずれも「名詞-普通名詞-サ変可能」という品詞タグを付与されており、サ変名詞である。(16a) の「実現」は、漫画連載を実現するというイベントを表し、(16b) の「デザイン」は、デザインの内容を表している。

*1 「者」の品詞タグは、「接尾辞-名詞的-一般」である。

サ変名詞がイベントを表すか内容を表すかは、どのような述語と共に起するのかに依存して決まる。例えば、「—に難航する」はイベントを要求する述語であり、「—を絶賛する」は内容を要求する述語である。よって、NP₂ にサ変名詞を含む「NP₁ の NP₂」という単位だけでは、イベントを表すか内容を表すかを決める事はできない。このため、アノテーションのさいは、イベントを表すか内容を表すかにかかわらず、サ変名詞には、[非飽和-サ変名詞] というラベルを付与する。(16a) と (16b) の場合、それぞれ「漫画連載を実現する」「怪人をデザインする」という関係であるから、[非飽和-サ変名詞-ヲ格] を付与する。

3.2 [形容詞：adjective]

概要：形容詞由来の名詞 NP₂ とその項 NP₁。形容詞由来の名詞 NP₂ とは、NPCMJ で「形状詞可能」もしくは「形容詞+接尾辞」という品詞タグをもつ語のことである。

例：

- (17) a. [[NP₁ 研究] の [NP₂ 面白さ]] を感じた。
b. どの場合も、[[NP₁ 山芋本来] の [NP₂ 白さ]] と、独特の香りを生かすことが大切。
(wikipedia_KYOTO_16_CLT_00009_0054*)
c. 小学校の校長は「大人全員が子ども好きとは限らない。子どもの声が力になる、といふお年寄りばかりでもない」と [[NP₁ 現実] の [NP₂ 難しさ]] に触れる。
(newswire_KAHOKU_00037_K201403080A0T10XX00001_0042)
d. こうして誕生した 2 人の仮面ライダーは、[[NP₁ 人間] の [NP₂ 自由]] のためにショッカーと戦っていく。
(18_wikipedia_Kamen_Rider; JP*)

(17b)(17c) の「面白さ」「難しさ」は、NPCMJ で、「形容詞-一般」(面白い・難しい) と「接尾辞-名詞的-一般」(さ) という品詞タグをもつ。(17d) の「自由」は「名詞-普通名詞-形状詞可能」という品詞タグをもつ。このように、NP₂ が「形容詞+接尾辞」もしくは「形状詞可能」という品詞タグを含む場合は、[非飽和-形容詞] に分類する。

注意：NPCMJ の品詞タグについて：「サ変形状詞可能」と「形状詞可能」の区別

NPCMJ の品詞タグの分類は、Unidic *2に基づく。名詞の品詞タグのうち、「名詞-普通名詞-サ変可能」「名詞-普通名詞-形状詞可能」「名詞-普通名詞-サ変形状詞可能」という区別は、【非飽和】の下位分類に役に立つので、ここで簡単にまとめておく。

NP₂ がこのいづれかの品詞タグをもつとき、以下のように分類する。

- 「サ変可能」と「サ変形状詞可能」：[非飽和-サ変-ガ格]、[非飽和-サ変-ヲ格]、[非飽和-サ変-ヲ格] のいづれかに分類する。
- 「形状詞可能」：[非飽和-形容詞] に分類する。

「サ変形状詞可能」の場合は特に注意が必要で、例えば、「心配」の場合、「心配だ」ではなく、「心配する」というスル形で項の判定を行う。例えば、「私の心配」の場合、「私が心配する」なら、[非飽和-サ変-ガ格] に分

*2 マニュアルは https://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/~mine/japanese/nlp+slp/UNIDIC_manual.pdf を参照。

品詞タグ	説明
サ変可能	「する」「できる」などが直接続き、動詞として用いられることがあるもの 例：研究（する）、運動（する）
形状詞可能	「だ」「な」が直接続き、形容動詞として用いられることがあるもの 例：安全（だ）、平和（だ）、面倒（だ）、不安（だ）、必要（だ）、健康（だ）、不思議（だ）
サ変形状詞可能	「する・できる」と「だ・な」のどちらも直接続くことができるもの 例：心配（する・だ）、満足（する・だ）、独立（する・だ）、共通（する・だ）

表1 Unidic でのサ変可能・形状詞可能・変形状詞可能の区別

類する。「病気の心配」の場合、「病気が心配だ」という言い換えも可能だが、「心配する」の形を考えて、「病気を心配する」という意味になるので、[非饱和-サ変-ガ格] に分類する。

ただし、「する」の形で項を判定するとしても、判定が難しいケースがある。

- (18) a. あさってがあの店のオープンだ。 (769_textbook_kisonihongo;page_147;JP)
b. 我々は信頼の回復に努めなければならない。 (ID-207_textbook_kisonihongopage_76JP)

(18a) の場合、「オープン」は、「名詞-普通名詞-サ変形態詞可能」という品詞タグをもつ。よって、「オープンする」というスル形で「あの店」の項判定を行う。しかし、「あの店をオープンする」と「あの店がオープンする」のどちらの言い換えも可能である。この場合は、ガ格は「行為の主体 (Agent)」、ヲ格は「行為の対象 (Object, Theme)」を表すとみなして、「(誰かが) あの店をオープンする」という意味を優先し、[非飽和-サ変-ヲ格] に分類する。(18b) の場合も、「信頼が回復する」「信頼を回復する」のどちらの形も可能だが、「我々が信頼を回復する」という形を優先して、[非飽和-サ変-ヲ格] に分類する。

3.3 [一般 : general] (タイプ D)

概要： NP_2 は非飽和名詞（もしくは非飽和な名詞句）であり、 NP_1 がそのパラメータ（項）となっている。非飽和名詞は、意味的に完結するためには必ず「への」という補足を必要とする。

例：

- (19) a. [[NP₁ 太郎] の [NP₂ 妹]] が訪ねてきた。
b. 彼は [[NP₁ この会社] の [NP₂ 社員]] ではありません。
c. 紫式部は [[NP₁ 源氏物語] の [NP₂ 作者]] だ。 (ID-53_textbook_kisonihongopage_28JP)
d. 国語研は [[NP₁ 言語] の [NP₂ 観点]] から人間文化研究を促進しようとしています。
(ID-5_nonfiction_What_NINJAL_aspires_toJP*)
e. [[NP₁ 入札不調] の [NP₂ 原因]] は、資材や労務費の単価が上昇し、行政の積算基準とそれが生じた面がある。 (ID-21_newswire_KAHOKU_00051_K201403090A0T10XX00001)

注意：

- NP_2 が非飽和名詞であっても、 NP_1 が直接パラメータになつていなければ、このラベルには該当しない。
 - 「太郎の妹」 → 【非飽和】 ラベル

- 「北海道の妹」 → 【非飽和】ラベルではない
- 「月の使者」 → 【非飽和】ラベル
- 「正義の使者」 → 【非飽和】ラベルではない

非飽和名詞のリスト (寺村 1991, 西山 2003)

- 優勝者、敗者、委員長、司会者、上役、媒酌人、創立者、弁護人、黒幕、幹部、上司
- 社長、部長、課長、(副)院長、社員、調査役、室長、婦長、主任、班長、学部長、艦長
- 恋人、友達、先輩、後輩
- 妹、母、叔父、息子、子ども
- 上、下、左、右、先、端、傍、横、跡
- 名前、タイトル、原因、結果、敵、癖、趣味、犯人、買い時、基盤、前提、特徴、目的、締め切り、欠点、条件
- 様子、雰囲気、性格、能力、サイズ、温度
- 動き、流れ、動向、傾向

メモ：非飽和名詞のリストは隨時更新する。

- 「日」「月」「年」は基本的に飽和名詞。
- 項を2つとるケース
 - 才能、能力 → ~ (人) の~ (対象) についての才能
 - 先輩、同僚 → ~ (人) の~ (場所) での同僚：「人」が必須の項、場所・組織（大学・職場）も必須？
- 飽和と部分全体の対立：「編集部」「社長室」
- 飽和名詞にも非飽和名詞にもなりうるものを持て例として別途リストにする。

カキ料理構文テスト

「X が Y の Z だ」という形式で、Z が非飽和名詞であるとき、Y を主題化して、「Y は X が Z だ」という形式に言い換えることができる（西山 2003）。

- (20) a. 広島がカキ料理の本場だ。 ⇒ カキ料理は広島が本場だ。
 b. これが山田先生の本だ。 ≠ 山田先生はこれが本だ。

(20a) の「本場」は非飽和名詞であり、「カキ料理」がその項になっているのに対して、(20b) の「山田先生」は飽和名詞であり、「本」の項ではない。

【飽和】か【非飽和】で曖昧な例

「この町の弁護士」のように、【飽和】か【非飽和】かで分類先が曖昧な場合がある。【飽和】に分類される解釈と【非飽和】に分類される解釈と両方の可能性があるので、文脈を見て判断する。

- 【飽和】の解釈：この町に住んでいる弁護士、この町出身の弁護士、など。
- 【非飽和】の解釈：(自治体としての訴訟問題などで) この町の弁護を担当する弁護士

「子ども」「おばあちゃん」にも【飽和】と【非飽和】の解釈がある。

「子ども」

1. 【飽和】の解釈：幼い人を指すとき
 2. 【非飽和】の解釈：誰かの娘または息子を指すとき

「おばあちゃん」

1. 【飽和】の解釈：お年寄りの女性を指すとき
 2. 【非飽和】の解釈：誰かの先祖（祖母）を指すとき

4 【部分全体：PART-WHOLE】(タイプ F)

概要： NP_1 の部分（一部）である NP_2 。 NP_1 が表すもの（全体）の中で、 NP_2 という機能を果たすものに限られる。 NP_2 を譲渡不可能名詞 (inalienable noun) という。

例：

- (21) a. [[NP₁ 彼女] の [NP₂ 手]] を握った。
b. そのうちに、[[NP₁ 新聞] の [NP₂ 帯封]] に差出人の名前を記して送つてくるようになった。
c. 玄関で帰ろうとするのを、私は、[[NP₁ Y 君] の [NP₂ 手首]] を固くつかんで放さなかつた。
d. [[NP₁ 施設] の [NP₂ 玄関]] には既に、帰宅用の車が待機していました。

(ID-15_aozora_Dazai11940JP)
(ID-136_aozora_Dazai11940JP)
(ID-85newswire_KAHOKU_00035_K201405110A0T30XX00001)

注意：

- NP_1 も NP_2 も、それぞれ単独で指示対象をもつことに注意。
 - NP_1 は複合的なものを表し、譲渡不可能名詞 NP_2 はその一部として機能するものを表す。
 - 抽象物を表す名詞（抽象名詞）は譲渡不可能名詞には含めない。

譲渡不可能名詞のリスト

- 太郎の手、象の鼻、少年の髪、友人の顔、次郎の歯、王様の耳、チーターの尻尾
 - 家の玄関、ホールの天井、この部屋の窓、建物の柱、3号棟のエレベーター
 - あの車のハンドル／ブレーキ／アクセル／エンジン／タイヤ
 - 鍋の蓋／取っ手
 - 服の襟／袖／ポケット
 - 雑誌の表紙、本の序文、論文の目次、事典の索引
 - この曲のコーダ
 - (追記する)

メモ：

- ・譲渡不可能名詞は【飽和】の下位分類に集約したい。(【部分全体】という下位分類を新しく設ける。)

- 組織とその部署・部門（「東京大学の文学部」「出版社の編集部」「高校のサッカー部」「3年1組の生き物係」）の関係は、今のところ【部分全体】ではなく【非飽和】に分類している。ただし、これらの NP₂ には飽和名詞の用法もある（「文学部に行きたい」）。

譲渡不可能名詞と非飽和名詞の区別

「この NP は誰の／何の NP？」という文を作ることができるなら譲渡不可能名詞であり、作ることができなければ非飽和名詞である（西山 2013）。

- (22) a. *この妹は誰の妹？（「妹」は非飽和名詞）
b. この声は誰の声？（「声」は譲渡不可能名詞）

ただし、このテストには「前」「外」などの名詞や抽象名詞（「(奴の) こと」「(自分の) 力」）にはそもそも指示詞がつきにくいという問題点がある。

5 【時間断片：TIME-SEGMENT】（タイプ C）

概要： NP₁ が表す時間領域の中で NP₂ の指示対象の断片（時間断片）を固定する。NP₂ は特定の対象を指示する表現に限られる。

例：

- (23) a. [[NP₁ 復帰後] の [NP₂ 本郷]] はヘルメットを常用するようになった。（ID-118_wikipedia_Kamen_R^{*}）
b. 「[[NP₁ 私と一緒にとき] の [NP₂ ボギー]] はとても優しい人でした」とヘプバーンは語っている。
(ID-275_wikipedia_Audrey_Hepburn^{*})
c. [[NP₁ 当時] の [NP₂ 私]] は全く知らず、まさか岩沼市内陸部まで津波が来るようなことはない
だろう、と半信半疑であった。 （ID-49_newswire_KAHOKU_00046_K201403110A0T30XX00001^{*}）

例：大正末期の東京、着物を着たときの母

注意：

- 【飽和-時間】との区別に注意する。
 - 【時間断片】の場合は、NP₂ が NP₁ とは独立にひとつの対象（例：東京、母）を指示し、NP₁（大正末期、着物を着たとき）はその対象の時間断片を切り取るという機能をもつ。
 - 【飽和-時間】の場合は、NP₁ が NP₂ の指示対象の時間断片を切り取っているわけではない。通常、NP₁（1994 年、江戸時代）によって NP₂（例：米朝合意、農民）の適用範囲を狭めることで「NP₁ の NP₂」全体として特定の対象（1994 年の米朝合意、江戸時代の農民）を指示する。
- まれに、「信州の月」のように、特定の場所に関しての NP₂ の断片を参照しているような例がある。この場合も、「信州から見た月」という意味だと解釈して【時間断片】に含める。

6 【同格：APPPOSITIVE】

概要： NP₁ がどのような種類の対象であるのかを NP₂ で補足的に明示するタイプ（三宅 2011）。生産性は低く、ほぼ慣習化している。

例：

- チューリップの花、バラの花、スミレの花
- 松の木、杉の木、イチョウの木
- 東京の町、大阪の町、神戸の町
- 日本の国、摂津の国、尾張の国
- 日の丸の旗
- 君が代の歌、赤とんぼの歌
- 富士の山
- (川端康成の)『雪国』の小説
- (井沢本人をさして) 井沢の兄貴

(24) 主人公の仮面については、[[NP₁ 怒り] の [NP₂ 感情]] が高まると顔に感電事故による十字形の傷跡が浮かび上がるため、それを隠すために被っているという設定が加えられている。

(39_wikipedia_Kamen_Rider;JP)

テスト：

1. 「NP₁ は NP₂ だ」という意味的関係が成り立つ。

例：チューリップの花 ⇒ チューリップは花だ

2. 「チューリップという花」「松という木」「日本という国」のように、「NP₁ という NP₂」と言い換えることができる。

7 【例示：EXEMPLIFICATION】

概要： NP₁ を例とする NP₂。NP₁ は「～など」のような表現を伴い、NP₁ が NP₂ の例となっている。

例：

- (25) a. 川端康成は [[NP₁ 『雪国』など] の [NP₂ 代表作]] をもつ作家だ。
b. ビタミン C は [[NP₁ りんごやみかんなど] の [NP₂ 果物]] に含まれている。
c. 石森章太郎は、[[NP₁ 「サイボーグ 009」や「佐武と市捕物控」など] の [NP₂ 数多くのヒット作]] を送り出してきた。 (ID-40_wikipedia_Kamen_Rider*)
d. 近年、全国各地で [[NP₁ 風水害など] の [NP₂ 自然災害]] が頻発。

(ID-30_newswire_KAHOKU_00078_K201401010A0FZ0XX00002)

注意： 「～など」を伴うとき、つねに [例示] となるわけではない。以下のテストを参照。

テスト：

1. 「X などの Y」が [例示] であるとき、「X は Y だ」という意味的関係が成り立つ。
 - 『雪国』などの代表作 → 『雪国』は代表作だ【飽和-例示】
 - りんごやみかんなどの果物 → りんごやみかんは果物だ【飽和-例示】
 - 富士通やアップルなどのパソコン → *富士通やアップルはパソコンだ【飽和-一般】
 - 3号館などの窓 → *3号館は窓だ【部分全体】
2. 「など」を除くと意味的に不適切になる。

- ・『雪国』などの代表作 → *『雪国』の代表作 【飽和-例示】
- ・富士通やアップルなどのパソコン → 富士通やアップルのパソコン 【飽和-一般】
- ・3号館などの窓 → 3号館の窓 【部分全体】

テストをパスしない場合は、テストの例にある【飽和-一般】や【部分全体】のように、別ラベルを与える。

メモ：

- ・元々は【飽和】の下位分類として【飽和-例示】を設けていたが、NP₁やNP₂の除去に関して【飽和】の他の例と異なる含意関係のパターンを示すため、12/26版から別分類とした。
- ・「など」が必ず付くのだとすると、「助詞+の」の分類として検討した方がよいかもしれない。

8 【形式名詞：FORMAL-NOUN】

概要： NP₂ が形式名詞（こと、せい、ため、とき等）であるもの。

※【非飽和】の下位分類に入る。一般に形式名詞と呼ばれているものは【形式名詞】のラベルを優先してつける。

例：

- (26) a. [[NP₁ 過去] の [NP₂ こと]] は忘れない。
 b. [[NP₁ 病気] の [NP₂ せい]] で欠席した。
 c. [[NP₁ 相手] の [NP₂ ため]] を思っての行動だった。
 d. このとき、[[NP₁ 私] の [NP₂ ため]] に立ってくれたのが、A君である。(ID-58_aozora_Dazai11940JP)
 e. [[NP₁ 教科書の指示] の [NP₂ とおり]] に実験を行った。(ID-84_textbook_kisonihongopage_36JP)
 f. [[NP₁ あなた] の [NP₂ おかげ]] で助かりました。 (ID-85_textbook_kisonihongopage_37JP)
 g. この絵は写実的で、[[NP₁ 写真] の [NP₂ よう]] だ。 (676_textbook_kisonihongo;page_134;JP)

形式名詞のリスト (『基礎日本語文法』より) :

- A. 補足節を作る形式名詞
 - こと、ところ
 - 「名詞+の+ところ」で場所でない名詞を場所名詞にしたり、全体の中の位置を示す用法がある
 - 「こと」には具体的な人やものを表す名詞に付いて、「名詞に関する事柄」「名詞の属性」などの意味をもつ抽象的な名詞を作る用法がある
- B. 副詞節を作る形式名詞
 - 時、おり、間 (あいだ)、内 (うち)、中 (なか)、後、前、最中、さい、場合、たび、末
 - ため、おかげ、せい、あまり
 - とおり、よう、かわり、ほか、ついで、まま、ほど (御好意のほど)
 - 一方、反面、限り、くせ
- C. 判定詞と結合して助動詞になる
 - はず、の、わけ、もの、つもり、こと、よう、方 (ほう)

メモ：

- 形式名詞は節を形成する。例：「桜が咲いたとき」「先生が言ったとおり」「学校を休んだ場合」
- 該当する表現のリストは随時更新する。

9 【数量・限定：QUANT-NUM】

概要： NP₁ もしくは NP₂ が数量・限定を表す表現であるもの。次の三つのケースがある。

1. NP₁ が数量を表すもの：すべての学生、全員の学生、三人の学生、大部分の料理、両方の数、三種類のチーズ
2. NP₂ が数量を表すもの：学生の全員、学生の大部分、学生の三割、チーズの三種
3. NP₁ が特別な限定表現であるもの。以下のような例がある（他に見つかった場合は報告する）。
 - 人や物の同一性を表す表現
 - [[NP₁ 別] の [NP₂ 料理]]
 - [[NP₁ 同一] の [NP₂ 数]]
 - [[NP₁ 他] の [NP₂ 学生]]
 - [[NP₁ なんらか] の [NP₂ 事情]]
 - 直示的・照応的な限定表現（文脈から特定の対象を選び出すための表現）
 - [[NP₁ これら] の [NP₂ 論文]]
 - [[NP₁ 例] の [NP₂ 話]]
 - [[NP₁ 問題] の [NP₂ 建物]]

メモ： NPCMJ では数量表現には別ラベル (NUMCLP) が割り当てられているはずだが、数量表現が誤って紛れている場合はあとでエラー報告するために、このラベルを振っておく。

10 【慣用表現：IDIOM】

概要： 「NP₁ の NP₂」の形をしているが、固有名詞化していたり一語化しているもの。

例： みどりの日、竹馬の友、苦肉の策、玉の輿、背水の陣

【助詞+の】

概要： 「NP₁ +助詞 (P) +の (P) + NP₂」の形式になっているものも検索に含まれるので、除外するためにこのラベルを振っておく。

例： 花子からの手紙、学生との面談、佐賀県との誘致合戦、国民への期待、国への働きかけ

全般的な注意

疑問表現の扱い

「誰」「何」「どこ」「どっち」「どれ」「いつ」「どのN」「どんなN」「どのようなN」などの疑問表現が現れた場合は、その答えとなる名詞句を埋めた形式を手掛かりとして分類する。

- (27) a. [[NP₁ 誰] の [NP₂ 本]] がなくなったのですか。 (textbook_kisonihongo_0714)
 答え：[[NP₁ 山田先生] の [NP₂ 本]] がなくなった。【飽和-一般】

b. [[NP₁ 誰] の [NP₂ 妹]] に会ったのですか。
 答え：[[NP₁ 太郎] の [NP₂ 妹]] に会った。【非飽和-一般】

c. 海外の研究者の中では、産学官による誘致運動が進む日本への期待が高まり、[[NP₁ 日本] の [NP₂ どこ]] が候補地になるのかが注目されていた。【飽和-空間】
 (ID-17_newswire_KAHOKU_00089_K201401040A0F70XX00001JP)

d. 子供のころは、[[NP₁ なん] の [NP₂ こと]] かわからず、ただ、トキショ、トキショと呼んでいた。【形式名詞】
 (ID-30_aozora_Dazai11940JP)

含意關係

「NP₁ の NP₂」の分類と同時に、各事例について「NP₁ の除去」「NP₂ の除去」という二つのタイプの含意関係が成り立つかどうかをアノテートする^{*3}。

まず一般的に、「文 A が文 B を含意する」とは、

- 文 A が真ならば、文 B も必ず真である (A が真なのに、B が偽となる状況は考えられない)

ということを意味する。他の言い方としては、

- A を受け入れたら、B も受け入れなければいけない
 - A の情報にはすでに B の情報も含まれている

というものもある。例えば、(28a) は (28b) を含意する。

- (28) a. パレスチナ自治区のガザで医療援助の活動をしている。
b. ガザで医療援助の活動をしている。

逆に「文 A は文 B を含意しない」というのは、

- A が真であっても、B が真であるとは限らない (= A が真であって、B が偽となるような状況を考えられる)

という意味になる。実テキストにこのような基準を適用するさいは、もう少し基準を柔軟にする必要も生じるが、現段階では、上記の意味で「含意」を理解する。

アノテーションでは、表2のラベルを用いる^{*4}。

[NP₁ の除去] とは、「NP₁ の NP₂」から 「NP₁ +の」を取り除く操作を表し、[NP₂ の除去] とは、「NP₁ の NP₂」から 「の+ NP₂」を取り除く操作を表す。

*3 現段階では、上のガイドラインで [飽和-空間] のところだけ、含意関係について詳しく説明している。

*4 「含意しない」と「undef」の区別はしばしば不明瞭なので、これを区別せず、「意味が不確定になる」というケースも含めて「含意しない」に統一した方がいいかもしれない。

ラベル	説明
含意 (○)	含意する
含意しない (✗)	含意しない (文が非文・解釈困難になるケースも含める)
undef (△)	意味が不確定 (不完全) になる
?	判定が悩ましい
NA	Non-applicable (疑問文・命令文など含意関係の判定外のときに付与する)

表 2 含意関係ラベル

例 1 :【飽和-一般】

【飽和-一般】の次の例では、[NP₁ の除去] は成り立つが、[NP₂ の除去] は成り立たない。

(29) 太郎は [[NP₁ 山田先生] の [NP₂ 本]] を買った。

- NP₁ の除去：太郎は [NP₂ 本] を買った。 (含意する)
- NP₂ の除去：太郎は [NP₁ 山田先生] を買った。 (含意しない)

次の例も同様である。^{*5}

(30) あれは [[NP₁ 山田先生] の [NP₂ 車]] だ。

- NP₁ の除去：あれは [NP₂ 車] だ。 (含意する)
- NP₂ の除去：あれは [NP₁ 山田先生] だ。 (含意しない)

例 2 :【コピュラ】

【コピュラ】の以下の例では、[NP₁ の除去] も [NP₂ の除去] も成立する。

(31) [[NP₁ 看護婦] の [NP₂ 花子]] が訪ねてきた。

- NP₁ の除去：[NP₂ 花子] が訪ねてきた。 (含意する)
- NP₂ の除去：[NP₁ 看護婦] が訪ねてきた。 (含意する)

(32) 彼は [[NP₁ ピアニスト] の [NP₂ 学生]] だ。

- NP₁ の除去：彼は [NP₂ 学生] だ。 (含意する)
- NP₂ の除去：彼は [NP₁ ピアニスト] だ。 (含意する)

例 3 :【非飽和-一般】

【非飽和-一般】の以下の例では、[NP₁ の除去] を行うと、元の文と比べて意味的に不確定 (不完全) な文が得られる。この場合、“undef” というラベルを付与する。一方、[NP₂ の除去] は成り立たない。

(33) [[NP₁ 太郎] の [NP₂ 妹]] が訪ねてきた。

^{*5} 「山田先生の」という形で「の」を残した場合、含意関係が成立する。

- 太郎は山田先生の車を買った。 ⇒ 太郎は山田先生のを買った。 (含意する)
- あれは山田先生の車だ。 ⇒ あれは山田先生のだ。 (含意する)

	NP ₁ の除去	NP ₂ の除去
【飽和-空間】	○	×
【飽和-時間】	○	×
【飽和-順序】	○	×
【飽和-一般】	○	×
【コピュラ】	○	○ ^{注意 1}
【非飽和-サ変-ガ格】	△	×
【非飽和-サ変-ヲ格】	△	×
【非飽和-サ変-ニ格】	△	×
【非飽和-形容詞】	△	×
【非飽和-一般】	△	×
【部分全体】	△	○ ^{注意 2}
【時間断片】	○	×
【同格】	○	○
【例示】	○	○
【形式名詞】	場合による	場合による
【数量】	場合による	場合による
【慣用表現】	×	×

表3 含意関係：NP₁ と NP₂ の除去

- NP₁ の除去：[NP₂ 妹] が訪ねてきた。 (undef)
- NP₂ の除去：[NP₁ 太郎] が訪ねてきた。 (含意しない)

(34) 彼女は [[NP₁ 政治家] の [NP₂ 娘]] だ。

- NP₁ の除去：彼女は [NP₂ 威] だ。 (undef)
- NP₂ の除去：彼女は [NP₁ 政治家] だ。 (含意しない)

例4：【例示】

【例示】の以下の例では、[NP₁ の除去] も [NP₂ の除去] も成立する。

(35) [[NP₁ みかんなど] の [NP₂ 果物]] を食べた。

- NP₁ の除去：[NP₂ 果物] を食べた。 (含意する)
- NP₂ の除去：[NP₁ みかんなど] を食べた。 (含意する)

各タイプごとに、基本的な構文^{*6}において、[NP₁ の除去] と [NP₂ の除去] が成立するか否かをまとめたものを表3に示す。○は「含意する」、×は「含意しない」、△は「undef」を意味する。

以上の一般化にはさまざまな例外が存在するので注意が必要である。表5はあくまで参考であり、アノテーションのさいはこれを鵜呑みにせず、各例をよく観察して含意関係の成立・不成立をアノテートする必要がある。

^{*6} ここで「基本的な構文」と呼んだのは、「Upward Monotonic な文脈」に等しい。

ある。

含意関係を判定するさいに注意する点をいくつかあげる。

注意 1：【コピュラ】における NP_2 の除去

【コピュラ】では、 NP_1 が「病気」「～用」「～入り」のように自立した名詞として使いにくいものがある。

(36) 病気の父を見舞った。

- NP_1 の除去： $[NP_2 \text{ 父}]$ を見舞った。(含意する)
- NP_2 の除去： $[NP_1 \text{ 病気}]$ を見舞った。(含意しない)

ここで、 $[NP_2 \text{ の除去}]$ では、 NP_2 を除去した結果得られる文がそもそも文としておかしなものになっている。このように非文法的・解釈不可能な文^{*7}が得られるケースも含めて、「含意しない」というラベルを用いる。

注意 2：共起する述語による変動 — 【部分全体】のケース

含意関係が成立するか否かは、「 NP_1 の NP_2 」のタイプだけでなく、「 NP_1 の NP_2 」と共に起する述語の種類によっても変動する。例えば、【部分全体】の以下の例では、表 3 の通り、 $[NP_1 \text{ の除去}]$ は `undef`、 $[NP_2 \text{ の除去}]$ は成立する。

(37) $[[NP_1 \text{ 太郎}] \text{ の } [NP_2 \text{ 顔}]]$ に触れた。

- NP_1 の除去： $[NP_2 \text{ 顔}]$ に触れた。`(undef)`
- NP_2 の除去： $[NP_1 \text{ 太郎}]$ に触れた。(含意する)

しかし、次の【部分全体】の例の場合、 $[NP_2 \text{ の除去}]$ は成立しない。つまり、(38) が真であるからといって、(10) も真であるとは限らない。

(38) $[[NP_1 \text{ この家}] \text{ の } [NP_2 \text{ 玄関}]]$ はきれいだ。

- NP_1 の除去： $[NP_2 \text{ 玄関}]$ はきれいだ。`(undef)`
- NP_2 の除去： $[NP_1 \text{ この家}]$ はきれいだ。(含意しない)

【部分全体】で $[NP_2 \text{ の除去}]$ が成立するかどうかは、「 x の一部に触れたならば、 x に触れた」「 x の一部がきれいならば、 x もきれいだ」といった知識が成り立つか否かに依存して決まる。このように外的な知識（世界知識）を介して含意関係が成立することがあるので注意が必要である。

注意 3：共起する述語による変動 — 「総称」の解釈

【部分全体】以外でも、共起する述語のタイプが含意関係の成立に影響する場合がある。例えば、以下は【コピュラ】の例である。(39) では、 $[NP_1 \text{ の除去}]$ が成立するのに対して、(40) では、 $[NP_1 \text{ の除去}]$ は成立しない。

(39) $[[NP_1 \text{ 雌}] \text{ の } [NP_2 \text{ ライオン}]]$ が眠っている。

NP_1 の除去： $[NP_2 \text{ ライオン}]$ が眠っている。(含意する)

*7 述語の選択制限に違反した文を含む。

- (40) [[NP₁ 雌] の [NP₂ ライオン]] はおとなしい。
NP₁ の除去 : [NP₂ ライオン] はおとなしい。(含意しない)

「雌のライオン」は、(39) では「ある雌のライオン」という存在量化の解釈を受けるのが自然であるが、(39)の場合、「雌のライオン一般」という仕方で総称的に解釈するのが自然である。「NP₁ の NP₂」がこのように総称的な解釈を受ける場合、含意関係が変動することがあるので注意が必要である。

日本語では、名詞句は総称的な解釈と存在量化の解釈のいずれも可能であることが多い。例えば、(41) の「ピアニストのフランス人」及び、[NP₁ の除去] [NP₂ の除去] によって得られる結論文「ピアニストが好きだ」「フランス人が好きだ」の「ピアニスト」「フランス人」をいずれも存在量化の意味で解釈するなら、含意関係は成立する。

- (41) [[NP₁ ピアニスト] の [NP₂ フランス人]] が好きだ。

- NP₁ の除去 : [NP₂ ピアニスト] が好きだ。
- NP₂ の除去 : [NP₁ フランス人] が好きだ。

一方、「ピアニストのフランス人」「ピアニスト」「フランス人」を総称的に解釈した場合、含意関係は成立しない。

注意 4：否定

否定表現を含む文の場合、その否定のスコープに「NP₁ の NP₂」が現れた場合、含意関係は反転する。例えば、(32) とは対照的に、以下の例では、[NP₁ の除去] も [NP₂ の除去] も成立しない。

- (42) 彼は [[NP₁ ピアニスト] の [NP₂ 学生]] ではない。

- NP₁ の除去 : 彼は [NP₂ ピアニスト] ではない。(含意しない)
- NP₂ の除去 : 彼は [NP₁ 学生] ではない。(含意しない)

注意 5：疑問文と命令文

疑問文や命令文に対しては、含意関係の判定対象から外し、「NA」(Non-applicable) というラベルを付与する。

- (43) a. [[NP₁ 誰] の [NP₂ 本]] がなくなったんですか。 (714_textbook_kisonihongo;page_139;JP)
b. [[NP₁ 明日] の [NP₂ パーティー]] 出席する？ (1328_textbook_kisonihongo;page_223;JP)
c. 一度 [[NP₁ 私] の [NP₂ ところ]] に遊びに来てください。 (88_textbook_kisonihongo;page_37;JP)

以上の例は、[NP₁ の除去] も [NP₂ の除去] も「NA」が付与される。

注意 6：「NP₁ の NP₂ の NP₃」のケース

「NP₁ の NP₂ の NP₃」の形で、NP₁ も NP₂ も NP₃ に係っているとき、「NP₂ の NP₃」の箇所にのみ着目し、NP₃ の除去を試みてみると、「NP₁ の NP₂」の形が残ってしまって適切でない。この場合、例えば、NP₂ を残す場合は、NP₁ を NP₃ と一緒に除去する必要がある。(後で具体例を追加する。)

意味表示

述語	型	説明
$\text{location}(x, y)$	$e \rightarrow e \rightarrow t$	x が空間 y に位置する
$\text{time}(x, y)$	$e \rightarrow e \rightarrow t$	x が時間 y に位置する
$\text{subj}(e, x)$	$ev \rightarrow e \rightarrow t$	x がイベント e とガ格が表す関係にある
$\text{obj}_1(e, x)$	$ev \rightarrow e \rightarrow t$	x がイベント e とヲ格が表す関係にある
$\text{obj}_2(e, x)$	$ev \rightarrow e \rightarrow t$	x がイベント e とニ格が表す関係にある
$\text{PartOf}(x, y)$	$e \rightarrow e \rightarrow t$	x は y の部分である

表 4 意味表示で使用される特別な述語

意味表示で用いられる特別な述語を表 4 に示す。各タイプの意味表示を表 5 に示す。

NP ₁ の型	NP ₂ の型	「NP ₁ の NP ₂ 」の型	意味表示
【飽和-空間】	e	$e \rightarrow t$	$e \rightarrow t \quad \lambda x. \llbracket \beta \rrbracket(x) \wedge \text{location}(x, \llbracket \alpha \rrbracket)$
【飽和-時間】	e	$e \rightarrow t$	$e \rightarrow t \quad \lambda x. \llbracket \beta \rrbracket(x) \wedge \text{time}(x, \llbracket \alpha \rrbracket)$
【飽和-順序】			
【飽和-一般】	e	$e \rightarrow t$	$e \rightarrow t \quad \lambda x. \llbracket \beta \rrbracket(x) \wedge R(x, \llbracket \alpha \rrbracket)$
【コピュラ】	$e \rightarrow t$	$e \rightarrow t$	$e \rightarrow t \quad \lambda x. \llbracket \alpha \rrbracket(x) \wedge \llbracket \beta \rrbracket(x)$
【非飽和-サ変-ガ格】	e	$ev \rightarrow t$	$ev \rightarrow t \quad \lambda e. \llbracket \beta \rrbracket(e) \wedge \text{subj}(e, \llbracket \alpha \rrbracket)$
【非飽和-サ変-ヲ格】	e	$ev \rightarrow t$	$ev \rightarrow t \quad \lambda e. \llbracket \beta \rrbracket(e) \wedge \text{obj}_1(e, \llbracket \alpha \rrbracket)$
【非飽和-サ変-ニ格】	e	$ev \rightarrow t$	$ev \rightarrow t \quad \lambda e. \llbracket \beta \rrbracket(e) \wedge \text{obj}_2(e, \llbracket \alpha \rrbracket)$
【非飽和-形容詞】	e	$ev \rightarrow t$	$ev \rightarrow t \quad \lambda e. \llbracket \beta \rrbracket(e) \wedge \text{subj}(e, \llbracket \alpha \rrbracket)$
【非飽和-一般】	e	$e \rightarrow e \rightarrow t$	$e \rightarrow t \quad \lambda x. \llbracket \beta \rrbracket(x, \llbracket \alpha \rrbracket)$
【部分全体】	e	$e \rightarrow t$	$e \rightarrow t \quad \lambda x. \llbracket \beta \rrbracket(x) \wedge \text{PartOf}(x, \llbracket \alpha \rrbracket)$
【同格】	e	$e \rightarrow t$	$(e \rightarrow t) \rightarrow t \quad \lambda F. F(\llbracket \alpha \rrbracket) \wedge CI : \llbracket \beta \rrbracket(\llbracket \alpha \rrbracket)$
【時間断片】			

表 5 意味表示

文献

- 三宅知宏 2011. 「「主要部」の概念と“X の Y”型名詞句」, 『日本語研究のインターフェイス』, くろしお出版, 79–87.
- 寺村秀夫 1991. 『日本語のシンタクスと意味 III』, くろしお出版.
- 西山佑司 2003. 『日本語名詞句の意味論と語用論—指示的名詞句と非指示的名詞句—』, ひつじ書房.
- 西山佑司（編） 2013. 『名詞句の世界』, ひつじ書房.